DriveClone 11

マニュアル

目次

第 1 章: はじめに **3**

第 2 章: DriveClone のインストールとアンインストール **3**

2.1 システム要件 **3**

2.2 DriveClone のインストール **3**

2.3 DriveClone のアンインストール **5**

第 3 章: DriveClone を使い始める **5**

3.1 メイン画面 **6**

3.2 ワンタイムクローニング **6**

3.3 ミラードライブ **8**

3.4 アドバンス設定 **11**

3.5 仮想マシン（VM ファイル）へのクローン/変換 **12**

3.6 ログ **13**

3.7 PC のブート問題の修復 **13**

3.8 クローンされたドライブ **15**

3.9 ヘルプメニュー **16**

第 4 章: UEFI ベースのコンピュータのリストア **17**

4.1 UEFI について **17**

4.2 UEFI コンピュータ用にハードディスクをブート可能にする **18**

第 1 章: はじめに

DriveClone は、ハードディスク/SSD/フラッシュドライブ上のあらゆるファイル、アプリケーション及び Windows システムを別のハードディスク/SSD/フラッシュドライブ上に丸ごと完全コピーする為に設計されたアプリケーションです。 現在使用中のハードディスク/SSD/フラッシュドライブのクローンを、より高速な SSD など性能の優れた別のドライブ上に簡単に作成することができます。ドライブの容量が異なっていても問題ありません。クローンの作成中、プロセスの煩雑さ軽減の為に、DriveClone は自動的にパーティションの大きさを調整します。

第 2 章: DriveClone のインストールとアンインストール

2.1 システム要件

- Windows® XP (32-bit & 64-bit)
- Windows® Vista (32-bit & 64-bit)
- Windows® 7 (32-bit & 64-bit)
- Windows® 8 (32-bit & 64-bit)
- Windows® 8.1 (32-bit & 64-bit)
- Windows® 10 (32-bit & 64-bit)
- 1GB 以上の RAM

2.2 DriveClone のインストール

パッケージ版をご購入の場合:

CD-ROM ドライブに CD-ROM を挿入してください。セットアッププログラムが自動的に起動します。起動しない場合は、CD-ROM の中の Setup.exe をダブルクリックして、画面の

指示に従ってインストールを進めてください。

ダウンロード版をご購入の場合:

実行ファイルをハードディスクにダウンロードします。DriveClone のインストーラをダブルクリックして、画面の指示に従ってインストールを進めてください。

1.「Setup.exe」をダブルクリックすると、上記画面が表示されます。「次へ」をクリックしてください。

2. ソフトウェア使用許諾契約書をよくお読みいただき、同意いただける場合は「同意する」をクリックしてください。

3. ユーザ名、会社名を入力し、シリアル番号を入れて「次へ」をクリックしてください。

4. 「インストール」をクリックすると、既定のフォルダにプログラムがインストールされます。または「参照」をクリックして別の場所を選択します。

5.「完了」をクリックするとインストールが完了します。

2.3 DriveClone のアンインストール

1. Windows のスタートメニューから、「スタート」、「コントロールパネル」、「プログラム」の順にクリックします。
2. 「プログラムの追加と削除」をダブルクリックします。
3. DriveClone を選択し、「アンインストール」をクリックすると、関連するコンポーネントのアンインストールが開始されます。

第 3 章: DriveClone を使い始める

DriveClone には 2 種類のクローン方法があります:

USB 筐体を使用したクローン作成（ノート PC やデスクトップ向き）:
ハードディスク/SSD/フラッシュを USB 筐体の中に入れて、DriveClone 11 でクローンを行います。クローンが完了したら、クローンされたハードディスク/SSD/フラッシュをターゲットコンピュータ向けに構成します。

ケーブル接続でのクローン作成（デスクトップ向き）:
コンピュータの筐体を開け IDE/SATA などのケーブルを用いて、外部接続のハードディスク/SSD/フラッシュをコンピュータに接続し、DriveClone 11 でクローンを行います。 クローンが完了したら、クローンされたハードディスク/SSD/フラッシュをターゲットコンピュータ向けに構成します。

3.1 メイン画面

このアイコンをダブルクリックして

DriveClone を起動します。

3.2 ワンタイムクローニング

ワンタイムクローニングは、一台のハードディスクや SSD を別の一台にそのままコピーするため、直ちにブート可能になります。そのため、ハードディスクや SSD をアップグレードした際、数回クリックするだけで、オペレーティングシステム、ドライバーやアプリケーションの再インストールは不要です。

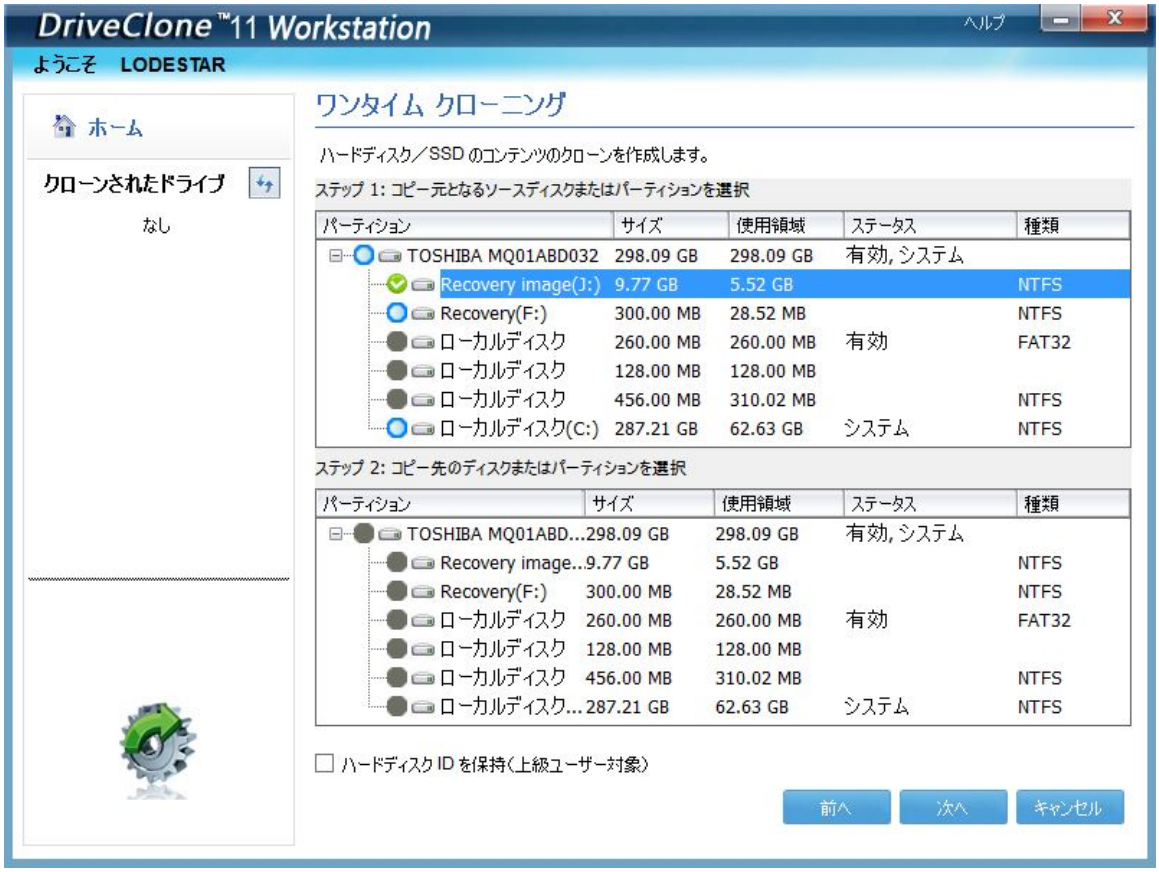
ヒント：

この機能を使うには、コンピュータに最低２つのハードディスクがつながれている必要があります。

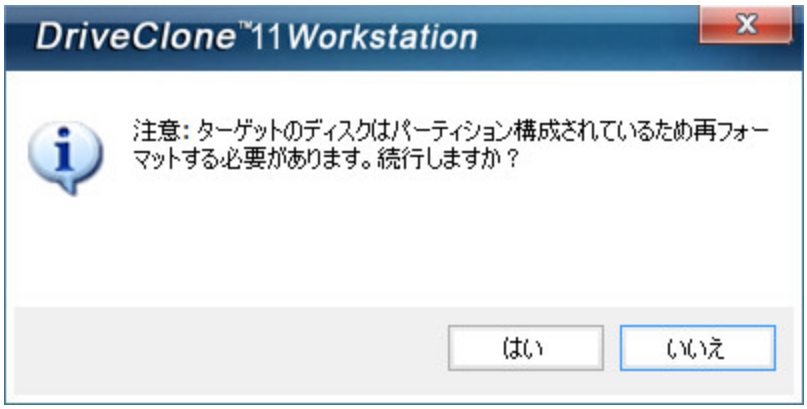
ターゲットのハードディスクには、ソースハードディスクのデータを保存する為に十分な容量が必要です。

1.「ワンタイム クローニング」をクリックします。

2. コピー元となるソースディスクまたはパーティションを選択した後（上側枠)、コピー先となるターゲットのパーティションを選択します。(下側枠)



3.「次へ」 をクリックして続行すると、以下のウィンドウが表示されます:



4.「はい」をクリックして続行します。

5.「高速クローニング」または「標準クローニング」を選択し、「次へ」をクリックします。高速クローニングは標準クローニングよりも高速ですが、デフラグが実行されないため、小さなサイズのハードディスクへのクローニングには適しません。

6.「終了」をクリックしてクローンを終了します。

注意：

USB デバイスへクローンした場合は、ハードディスクを筐体から取り出し、ターゲット PC に IDE/SATA 接続を使って挿入する必要があります。

3.3 ミラードライブ

ミラードライブでは、増分クローンが実行され、ルールに従ったファイルのバージョン管理が可能です。

増分をミラー：わずか数分という短時間で、増分クローンが可能です。

バックアップ保持数：古いファイルのコピーを保存しておきたい場合に選択します。何セットまで保存しておくか指定します。"dcbkYYYY-MM-DD" という日付がついた名前のフォルダに保存されます。このフォルダは、増分ミラーが作成される度に自動的に作成されます。

スケジュールクローニング：常にデータを最新に保つためにターゲットハードディスクへの自動スケジュールクローニングを設定するには、このオプションを選択します。スケジュールクローニングでは、増分クローニングが実行されます。

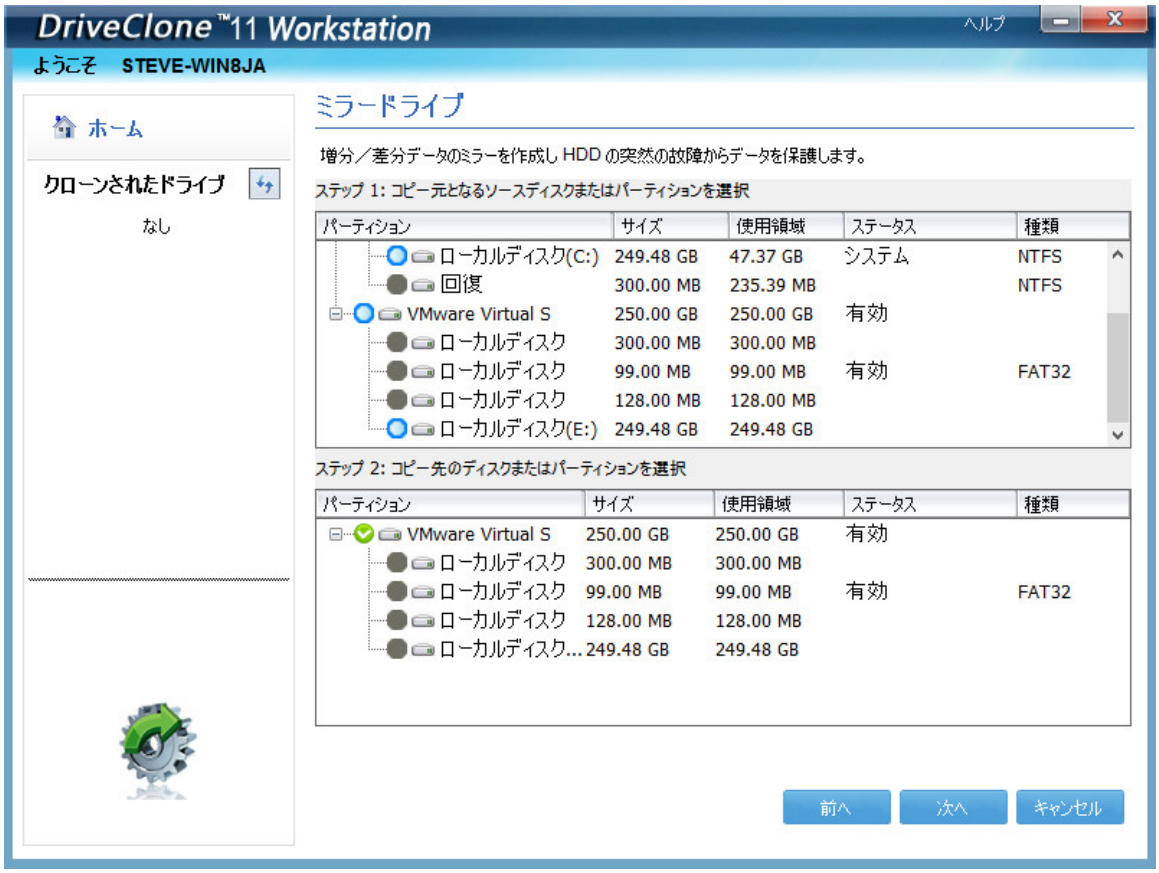
バックアップ保持数：古いファイルのコピーを選択して"#dcbkYYYY-MM-DD"フォルダに

保存します。このフォルダは、スケジュールクローニングで古いファイルを保存する際に自動的に作成されます。

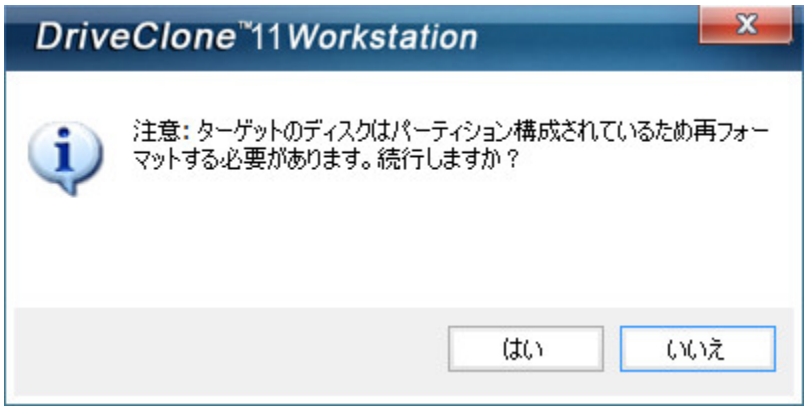
最新のファイルバージョンの保存に空き容量が足りない場合、すべての古いバージョンをマージまたは削除：最新のファイルバージョンの保存に空き容量が足りない場合に、すべての古いバージョンファイルが削除されます。

1.「スケジュールクローニング」を選択し「次へ」をクリックすると、以下の画面が表示されます。クローニングタスク（実行時刻、毎日、毎週、毎月、一回のみ等）を設定します。

2. ソースとなるドライブ/パーティションを選んだ後（上側枠）、ターゲットのパーティションを選びます。（下側枠）



3.「次へ」をクリックして続行すると、下記ウィンドウが表示されます:



4.「はい」をクリックして続行します。

5.「高速クローニング」または「標準クローニング」を選択し、「次へ」をクリックします。高速クローニングは標準クローニングよりも高速ですが、デフラグが実行されないため、小さなサイズのハードディスクへのクローニングには適しません。

6.「終了」をクリックしてクローンニングを終了します。次回以降は、「クローンされたド

ライブ」に表示されているドライブを使用して増分ミラーを作成します。

注意：

USB デバイスへクローンした場合は、ハードディスクを筐体から取り出し、ターゲット PC に IDE/SATA 接続を使って挿入する必要があります。

3.4 アドバンス設定

「アドバンス設定」では、スマートクローン、ブート可能な異なるシステムへのクローン、完全なデフラグクローンの設定が行えます。

スマートクローン: このオプションが有効の場合、ブラウザの一時ファイルや Windows のキャッシュ スワップファイルやハイバーネーション一時ファイルなど、不必要なファイルを除外して、クローンやミラーを作成します。 これにより、作成時間を短縮できます。

ブート可能な異なるシステムへのクローン: このオプションが有効の場合、クローンされたドライブは、別のコンピュータでもブート可能になります。

完全なデフラグクローン: クローン作成を実行する前にすべてのファイルのデフラグを行います。 これにより、クローンされたドライブのパフォーマンスが 20% 程度向上します。

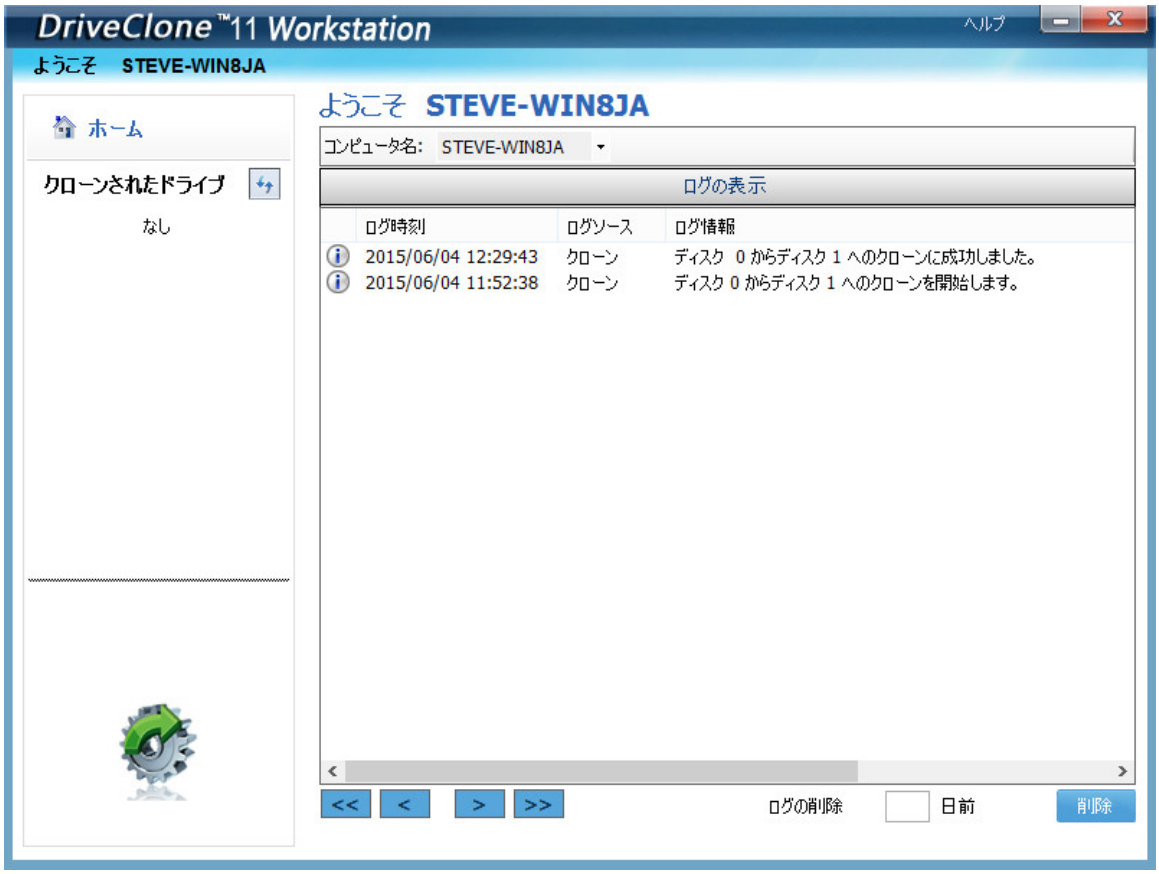
3.5 仮想マシン（VM ファイル）へのクローン/変換

ハードディスクやパーティションを、Microsoft の VHD や VMWare の VMDK などの仮想フォーマットに変換します。

1. 変換するソースとなるディスクまたはパーティションを選択し、希望する仮想フォーマットと保存先へのパスを選択し、「次へ」をクリックして続行します。
2. 選択した内容を確認し、「開始」をクリックします。「前へ」をクリックすると選択した内容の変更ができます。
3. 「終了」をクリックすると変換が完了します。

3.6 ログ

クローニングと変換に関連するすべてのログは「ログ」に保存されます。



ログの削除: 以前のログを削除します。

3.7 PC のブート問題の修復

Windows にてブートの問題がある場合、この機能を使って問題を修復します。

1.「PC のブート問題の修復」をクリックすると、以下のユーザーインターフェイスが表示されます。
2. お使いの PC にて Windows オペレーションシステムがインストールされている場所を参照します。

3. お使いの PC をブートするパーティション（通常、システムパーティションと同じハードディスク上に存在します）を選択し、「次へ」をクリックして続行します。
4. 修復を行いたい項目を選択します。ブート設定データベース、BOOT.INI、パーティションブートコード、マスターブートレコード (MBR)、およびブートディスクユニーク ID (GUID) を修復できます。

注意：
通常、ブート問題を修復するには、最初の 3 つのオプションを選択してください。

5. 「開始」をクリックして修復を開始します。「終了」をクリックしてブート問題の修復を完了します。

3.8 クローンされたドライブ

ミラードライブでドライブやパーティションのクローンを一度作成すると、そのジョブは「クローンされたドライブ」の欄にリストされます。以降は、そのドライブ/パーティションをクリックすればドライブのミラーを作成できます。

今すぐミラーを作成：直ちに増分クローン（変更されたファイルだけをクローン）が実行されます。

ミラー設定：増分クローンと古いファイルの保存ルールの設定を行います。

スケジュール設定：クローニングタスクの実行時間、毎日、毎週、毎月、または一回のみなどの設定が可能です。

以前のファイルバージョンを見る：保存された過去のファイルを確認できます。

3.9 ヘルプメニュー

「ヘルプ」 メニューには、ヘルプの表示、テクニカルサポート、シリアル番号や登録 (認証) 関連のオプションが用意されています。

ドロップダウンメニューから選択するか、それぞれのショートカットを使って必要な情報を得ることができます。

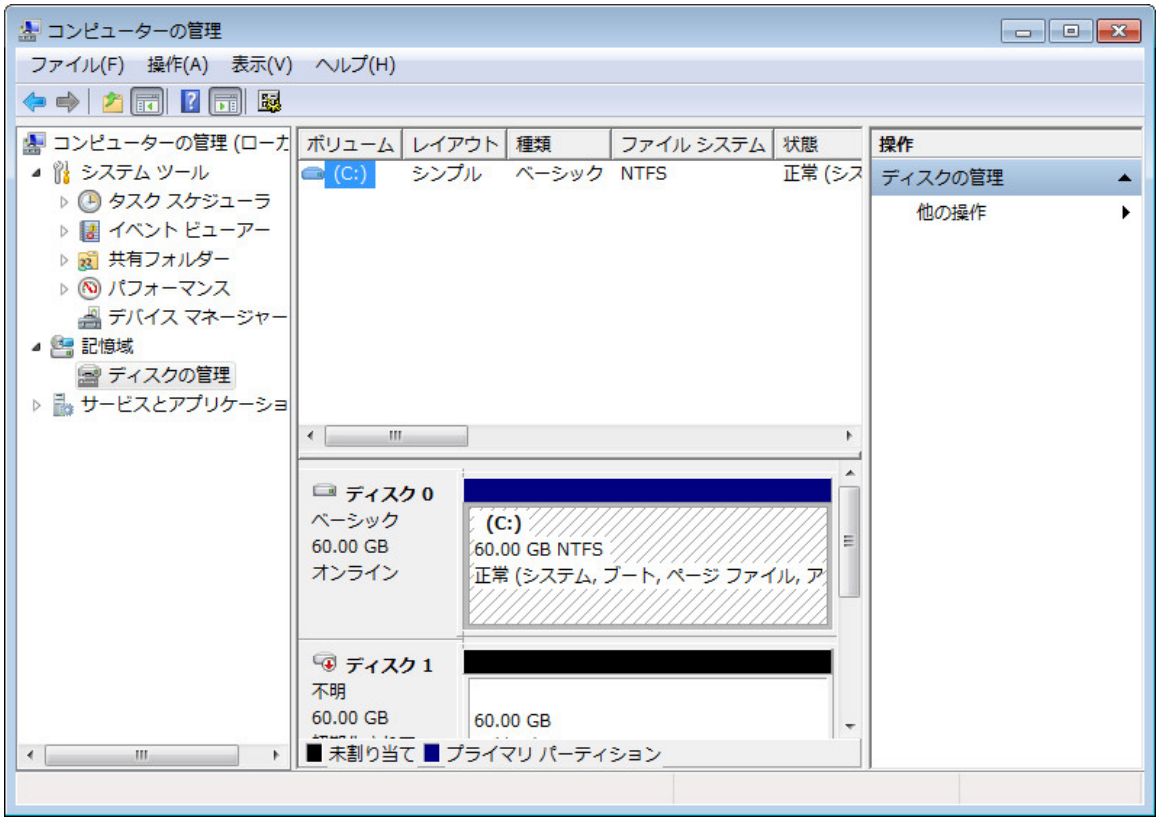
登録を有効にする: DriveClone 11 をインターネットもしくは Email 経由で有効にできます。
シリアル番号の変更: お使いのシリアル番号での有効期限が切れた場合、別のシリアル番号に変更できます。

第 4 章: UEFI ベースのコンピュータのリストア

4.1 UEFI について

UEFI とは Unified Extensible Firmware Interface の略です。従来の BIOS に比べてより高度に進化した標準仕様で、ブート可能な GPT ハードディスクや 2 テラバイトを超える大容量をサポートします。

UEFI ベースのコンピュータはマザーボード上にブート情報を持っているため、クローンを作成した後、ターゲットのコンピュータに必要なハードディスクの情報を設定しなければなりません。しかしながら、古い BIOS ベースのコンピュータではそのような必要がないので、単にクローンしたハードディスクと差し替えるだけで、直ちに使用可能な状態になります。Windows のコンピュータの管理 > 記憶域 > ディスクの管理にアクセスすれば、お使いのコンピュータが UEFI かどうか確認できます。このツール（下図）は、どの Windows にも用意されています。



システムパーティションが存在するハードディスクのタイプが上図（EFI システムパーティション）と表示される GPT ディスクの場合、コンピュータは UEFI です。MBR が表示される場合は、コンピュータは従来の BIOS です。

4.2 UEFI コンピュータ用にハードディスクをブート可能にする

3.7 章で解説した「PC のブート問題の修復」を実行した後に、旧式の EFI/UEFI コンピュータ（最新の UEFI コンピュータは、マザーボードにより自動検出されます）でハードディスクをブートできない場合は、BIOS 環境または DriveClone の Pre-OS 環境にてブート設定を行うことができます。

1. **EFI/UEFI モードでブート可能なハードディスクを設定する**

マザーボードはメーカーによって、ブート可能なハードディスクの設定方法は異なります。

詳細は、お使いのコンピュータのマニュアルをご参照ください。

2. **Pre-OS 環境でブート可能なハードディスクを設定する**

1) 下記のリンクからブート可能な ISO ファイルをダウンロードし、DVD に焼きます。URL からブート可能な ISO ファイルをダウンロードし、DVD に焼きます。
http://www.farstone.us/download/boot/TBR9-RM-ISO-64bitCPU.zip
2) DVD を使ってターゲットコンピュータを起動し、Pre-OS 環境に入ります。
3) 「ツール」タブを選んで「UEFI マザーボード向けにブート可能なハードディスクを設定する」というアイコンをクリックします。ドロップダウンメニューから「UEFI ベースのハードディスク」を選んでブート可能に設定します。「次へ」をクリックして完了します。